月形高 北翔大生と交流

理想の大人になろう

トークで協働意識育む

空知

【岩見沢発】月形高校（杉本千加等校長）は10月22日、同校で北翔大学との高大連携事業「ツキとを目的としている。



トーーーク！～遠くにいてもｔａｌｋでつながる」を行った＝写真＝。全校生徒43人は10班に分かれて、班の紹介動画づくりやディスカッションを実施。取組を通じてコミュニケーション能力の醸成および他者との協調・協働する意識を深めた。

高大連携事業は、コミュニケーション能力の醸成や他者と強調・協働する姿勢を身に付け、自分の価値観やこだわりを振り返り、他者との違いを理解することで関係の改善につなげること

北翔大からは、教職を目指す学生11人が参加。全校生徒を3～5人の10班に分け、学生が各班に1人付く体制で取組を行った。

はじめに、互いの仲を深めるため、班の紹介動画づくりを開始。同校では、授業で地域の動画づくりを行った経験があるため、まだ授業を受けていない後輩や学生にアドバイスを送りながら動画づくりにも励んだ。

ディスカッションでは、トークテーマ「なりたい大人になるために、今できること」をもとに①大人っていつから大人？②どんな大人になりたい？③私たちが今できること？―の3点を中心に話し合った。高校生からは「責任を持って働いたら大人になるんじゃない」「困っている人を積極的に助けて、いろんなことに取り組むような人になりたい」などと議論を交わした。

上葛龍音さん（2年）は、今回この行事に参加する際、自分から積極的に声をかけ、仲が深まるように意識したという。「ほかの人や全く知らない人と関わることで、自分が身に付けていなかった知識を知ることができた」と笑みを浮かべた。

杉本校長は「学年関係なく、大学生と関わろうとし、チャレンジしていきながら、自分から発信していく力を付けてほしい」と取組の効果に期待した。